

## 2023年度 中期目標・計画および学長方針に基づく自己点検・評価結果

中期目標・計画項目	目指す成果・達成状態	今年度(2023年度)の振り返り	課題	次年度(2024年度)取り組むこと
<p>「進路・就職」 「教育・研究」 「学生・生徒支援」</p>	<p>A. 各学科の特色に応じたキャリア形成と多様な進路支援の機会を提供できている状態。</p> <p>B. 大学および各学科の特色に応じた中期的な教育方針を策定し、各種申請等が完了できている状態。</p> <p>C. 学生の現状を把握し、学生の成長を促すために必要な学生支援を整理できている状態。</p>	<p>大学の教育研究活動の質や学生の学修成果の水準等を大学が継続的に保証するため、教学マネジメント部会においてアセスメント・チェックリストに基づいた点検・評価を行い、内部質保証委員会に報告すると共に、アセスメントチェック実施の各学科、各委員会にフィードバックした。</p> <p>また、学生間および学生・教職員間の交流の場として、クラブ勧誘イベント、学長杯争奪モルック大会、フレッシュマンキャンプ、リーダーズキャンプなど多くのイベント等を開催した。</p>	<p>・学科の質保証体制について学科間で進行度に差があり、Assessorへの学生の登録率および教員のフィードバック率について学科間でバラツキが大きい。</p> <p>・学修成果の可視化およびAssessorへ入力された情報を教育改善活動に繋げる必要がある。</p> <p>・学生・教職員が協働しながら学生による学生サポート活動を行う仕組みの構築が必要である。</p> <p>・多くの学科において、多様な学生に対する教育・学生支援について苦慮しており、結果として目標数値を下回る(未達成評価)項目も多々ある。</p>	<p>・学科の内部質保証体制の強化を図り、Assessorの各入力率における学科間のバラツキを減少させる。</p> <p>・Assessorを活用したディプロマサブリメントの発行により、多様な尺度による卒業時の学修成果を示す。</p> <p>・2027年度改革の方針に基づき、多様な学生に応じた学修者本位の教育と学生支援の実現に向けた取り組みを検討する。</p>
<p>「社会貢献」 「グローバル化」 「社会連携」</p>	<p>社会連携・社会貢献活動の更なる充実に向けた体制の再構築ができており、地域貢献活動の更なる充実に向けた連携・交流を促進できている状態。</p>	<p>2024年度から新たにスタートする東広島市Town&amp;GownOffice設置および広国市民大学を新たな社会貢献拠点として活用するための組織や制度の構築に注力した。また、広国市民大学の中で健康科学部社会学科地域創生学専攻の教育を展開するために必要な内容検討を開始した。</p>	<p>各学科が積極的に広国市民大学運営に参画し、運営する体制にしていける必要がある。また東広島市Town&amp;GownOfficeで取り扱う協働事業について研究から地域貢献まで幅が広いため、呉キャンパスも含めた全学的な協力体制の構築が必要である。</p>	<p>2023年度に組織検討・改革した広国市民大学について新たな体制での組織運用の試行実施と改善を行う。また、東広島市Town&amp;GownOfficeが設置され、地域との協働事業が本格スタートすることに伴う様々な共同事業について市と協議し本格的な取り組みを推進する。</p>
<p>「学生・生徒募集」 「学校間連携」</p>	<p>A. 【2025年度入学者選抜】 入試制度改革を着実に実行できている状態。</p> <p>A. 【社会学科】 学科の魅力を発信し、学科定員を充足している状態。</p> <p>A. 【その他の学科】 募集環境が厳しい学科は一人でも多くの入学者を獲得すべく都度戦略を見直し、実行している状態。他の学科は募集環境が厳しくなることを想定した戦略策定に着手している状態。</p> <p>B. 【高大連携】 現状の検証をし、入学者につながる新たな連携を確定している状態。</p>	<p>新学習指導要領に対応すべく入試制度改革WG等で検討し、2025年度入試を確定した。全学科・専攻において、教職協働の検討会を実施し、特色の明確化と認知度向上のための各種施策に取り組んだ。しかし、入学者数は900名となり、目標達成には至らなかった。連携協定校からの入学者数は目標には至らなかったが、連携事業実施校からの入学者数は増加傾向であることが確認できた。</p>	<p>医療系志望者減少の傾向もあり、早期から本学の分野への動機づけやオープンキャンパスへの参加、およびオープンキャンパスからの出願率向上を狙った施策が必要である。また、連携事業については、長期的な視点も考慮しつつ費用対効果を検証する手段を確立する必要がある。</p>	<p>入試制度の見直しは入試制度改革WG等により継続的に実施する。入学者確保においては、低年次から本学の領域への関心を高める施策、デジタルマーケティングを活用して受験生がリアクションしやすいメッセージ発信、学生目線での情報発信など強化する。連携事業については、拡大しつつも評価項目の確立を目指す。</p>
<p>「財務」</p>	<p>1. 財務バランスが前年度より改善している状態。</p> <p>2. 効果的な予算編成を実現するための施策が実行できている状態。</p>	<p>財務バランスにかかる取り組みを行うことで教育活動収支差額比率を、また予算編成にかかる取り組みを行うことで、教育研究経費等比率の改善に向けて取り組んだ。教育研究経費等比率は目標を達成することができたが、教育活動収支差額比率は目標達成できなかった。</p> <p>また、研究関連の取り組みとして、外部資金等の研究費を獲得するため、学内コーディネーターのサポートのもと、企業とのマッチングをおこなったが、寄付金等の減額により前年度比増とはならなかった。</p>	<p>「目指す成果・達成状態」および「年度別達成指標」は、毎年度、前年度を上回る目標となっているが、「財務」の項目の取り組みのみで年度別達成指標をクリアすることは困難である。年度別達成指標の評価については、「財務」の項目での評価を維持しつつも、別の形で評価(全学的視点)等も取り入れるなど、評価指標の設定を再検討する必要がある。</p> <p>研究関連の課題として、昨今の原材料等の高騰等により企業からの寄付金等が減少しているため、寄付金等の獲得が難しくなっている。</p> <p>また、通常の授業に加え学外実習等の業務により教員が研究に力を入れる時間が限られている。</p>	<p>前年度に引き続き、財務バランスにかかる取り組みおよび費用対効果の検証等による効果的な予算編成にかかる取り組みを行う。これらの取り組みが、年度別達成指標の目標達成に少しでも寄与するよう取り組む。</p> <p>また、研究関連の取り組みとして東広島市(Town&amp;GownOffice)と連携し、本学教員と企業とのマッチングを積極的に行うことで、外部資金獲得に繋げていく。</p>
<p>「人事(FD/SD)」</p>	<p>教職員の能力開発(FD/SD)に対する課題を抽出のうえ、研修プログラムを策定(再構築)できている状態</p>	<p>教職員の能力開発にかかる課題を抽出し、期待教職員像および教員と職員の役割を明確にしたうえで、FDおよびSDにかかる全学的な研修プログラムを再構築した。また、それらを推進するため、FDおよびSDを一体的に推進できる体制としてFD・SD推進委員会を設置した。</p>	<p>期待教職員像や教員と職員の役割に必要な能力を見える化し、研修プログラムの妥当性にかかる検証を行う必要がある。また、将来的にアセスメントプランに基づく点検・評価等、実務レベルにおいて見えてくる課題にも対応したプログラムについても検討する必要がある。</p>	<p>再構築した全学的な研修プログラムの運用を開始し、運用面における課題抽出および改善点等について検討するとともに、教職員に求められる役割に必要な能力の可視化や評価制度との運動強化について検討し、2025年度プログラムに反映させる。</p>
<p>「組織運営体制」</p>	<p>【現状の組織】 現状の課題に対応し、教職協働により組織力を強化できる体制が段階的に構築できている状態。</p> <p>【改革推進組織】 迅速に対応すべき事項に応じた改革が推進できる体制を構築し、検討を開始している状態。</p>	<p>内部質保証体制の見直し(大学・部門・個人レベルの3階層での活動や大学・大学院運営会議、内部質保証委員会、3部会等委員会の見直し等)を行い組織力を強化するとともに、学長諮問により学長方針等には盛り込んでいない迅速に検討が必要な重要なテーマについても議論できる体制を構築した。これにより、内部質保証体制の再構築を行うとともに、2027年度改革に向けた計画を策定することができた。</p>	<p>新たな内部質保証体制を運用する中で生じた問題・課題を抽出し体制の改善を図ること、また大学全体に浸透させることが必要となる。</p> <p>2027年度改革については、明確な改革の方向性や具体的な内容が確定していないため、本格的な議論をどこでどのように行っていくか等の検討が必要。また、教職員のベクトルを合わせて一丸となって取り組めるよう、適切なタイミングで必要な情報を共有することが必要である。</p>	<p>内部質保証体制については、点検評価・改善活動を実施し体制を強化するとともに、2023年度より取り組んできた委員会の整理を引き続いて行う。また、2027年度改革に向け、内部質保証委員会および3部会を活性化させ改革の方針や実行施策等を策定するなど、改革内容を具体化していく。さらに、その内容については教職員集会等で適宜教職員に共有し、全教職員で改革に取り組んでいく。様々な課題に対し、早期に対応を図るため、中長期的な視点での中期目標・計画の見直し/点検/評価を行う体制の整備を行う。</p>
<p>「ブランディング」</p>	<p>広国大のブランドが明確になっており、学内で共有できている状態。</p>	<p>ブランドの明確化に向けて、ブランドアイデンティティ(ブランドコンセプト・ブランド構造)にかかる検討を行った。また、ブランドを測定する指標の検討も開始した。</p>	<p>ブランドの明確化にかかる検討は1年間という短期で結論が導き出されることなく、次年度以降も引き続いて検討が必要である。このことを踏まえて年度毎目標等の再設定が必要である。</p>	<p>ブランドの明確化に向けリスケジュールを行う。ブランドを測る指標についてもリスケジュールに連動させて引き続き検討する。</p>